

道標ない旅

自分も人も大切に

～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和3年度 第41号
2022.3.8発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 3月2日（水）に6年生さよなら会が開催されました。 ◆◆



5年生のソーラン節の披露にはじまり、各学年が心のこもった工夫あふれるお祝いのダンスやメッセージを披露してくれました。トリを務めたのが、6年生に何かとお世話になった1年生。児童の瞳にも、周囲で見守る先生方の瞳にも涙があふれそうな素敵なシーンが広がっていました。校長の言葉というメニューがあったので、6年生に以下のような話をしました。

「とても優しいムードが流れる、すごく素敵な空間でした。なぜこんな空間が生まれたのかというと、6年生が君たちだったからです。もしも、君たちが心の冷たい嫌な先輩集団だったとしたら、こんなムードは絶対に作れません。これは君たちの6年間の成果なんだよ。周りで見守っていた先生方も涙を流しながら見守っていました。君たちが長柄小学校の『自分も人も大切に 思いやり チャレンジ しなやかな心』という学校教育目標通りに育ってくれたおかげです。結構多くの人は南郷中学校に進学するけれど、南郷中の学校教育目標は、『自立』『共生』『しなやかな心』の3つです。『自分も人も大切に』の完成形が求められることになるんです。

君たちの目の前には突然人ごとに出来ない大きな問題が現れてしまいました。世界が、その問題を乗り越えることが出来る力、『自分も人も大切に』できる本当の力を持った人を求めています。だからこそ、今日の、この素敵な空間を経験し、その素晴らしさ・大切さを知っている、君たちのような経験をした人の力が、世界に必要なになっているんだと思います。

今日の会の中で、5年生に気持ちの良い拍手をしてくれてありがとう。長柄小を君たちに任せるといった応援の気持ちは十分届いたと思います。そして、幼稚園から上がってきた1年生を、今日の姿にまで引き上げてくれて本当にありがとう。卒業式までわずかだけれど、いい卒業式にしましょう！」

◆◆ 職員会議にて、来年度のプールについて話題になりました。 ◆◆

今年初めて、逗子スポーツクラブのプールをお借りしての授業が行われました。体育部の先生方の分析をベースに、来年度どんな改善が必要かが話し合われました。「隔年でも良いから、1年に3回という回数を、6回に増やすのはどうだろう。」といったアイディアをベースに話し合った結果、「実質的な移動時間等を含めてそれを体育の時間とする関係上、回数が多いと、その学年の実質的な体育の時間が減りすぎるのでは？」といった考えや、「1年から6年までプールを公平に経験できることは大切ではないか」といった意見が出され、原則的には、次年度も各学年3回分の経験が出来るようにしていくことでまとまりました。ただし、

- ① 1年生が、朝の早い便で出発するのは大変に難しいので避ける方法を見つけること
 - ② 3回分を3日間分とするのではなく、実質2日間になってしまっても、行った先で十分なプール練習時間がとれる工夫（現在2校が前半/後半としている休館日の利用を、1校がまるまる使えるように1日で2回分を経験する方法）を考えること
 - ③ 来年度10月に予定されている運動会の時期の実施は避けること
 - ④ 本年度同様ボランティアさんの協力を仰いだり、教員のサポートが出来る体制を作っていくこと
- といったことを検討、工夫改善に加えていくことが必要なこともみんなで確認しました。

◆◆ 年度末反省にて、大きな課題となったのが、車の送り迎えのルール不徹底の問題です。 ◆◆

本校は、非常に時間のかかる距離に住む児童がある中、原則は車での送り迎えを禁じています。それはなぜだか、ご理解を得られているでしょうか？

皆さんの車送迎に耐えられるスペースは本校にないからです。

まず無制限に送迎を許可・解禁したとしたら、間違いなく車同士の事故、最悪は児童を巻き込む重大事故が、度々起こることが予想されます。実は、今年度だけで、3本のカラーコーンが車にひかれて使用不能になっています。

3年生の遠足では、遠足から帰ってきたバス3台が、その日無許可で送迎行為を行った数台の車輛が原因で、約20分ほど坂道を上がれずに、停車して待つしかないという異例の事態も起こりました。

一方、プール授業が始まり、バスが学校に来る回数が、往復で36回も増えている実情も見逃せません。

今回の職員会議においては、「無許可で送迎される方には、長柄小学校の送迎における名札のルールも守って頂けず、保護者なのか不審者なのかも見分けがつかない、実のところ安全の観点では容認できない実態もみられる。」といった指摘も上がりました。本年度警察の方を招いて不審者への対応訓練を行っただけに、教職員の受け取りも真剣で、改善が必要と強く意識し合ったところです。

また、急な大雨で児童を一斉下校させた日に、本来下校する児童を見守るはずの教職員の一部を、駐車場での送迎の車の誘導に割かなければならないことが頻発した頃の話も持ち上がりました。本来業務でない部分に責任を問われ、学校としても困った課題であったし、現在にも少なからず影を落としています。

なぜ駐車場で身動きがとれなくなるのでしょうか。その背景にはお子様のことを思う気持ちがあることは間違いありません。しかし、急なことへの対応のため、お子様は迎えに来ていることを知りません。だから本来車にとどまっていれば何らかの動き・対応をしてくれるはずのドライバーさん自身が、車を坂道の片側に寄せて駐車したまま車を離れ、お子様を見つけるために昇降口でお子様を待つことが、事態を悪化させるのです。そういった方が10名以上いっしょにいれば、ただでさえ狭い駐車場や坂道に、10台以上の放置された車両が残ります。学校では、町の施設等の送迎を許可している車輛があります。その車輛も加わって、Uターンするスペースさなくなるのが、長柄小学校の逃れられない弱点なのです。

スペースさえあるのなら、長い学区だけに送迎を許可して差し上げたいのですが、送迎する車が10台ほど集まると、学校の坂道はマヒしてしまうのです。では、どんな方々に車輛の使用を許可するべきでしょうか。

①急なケガ・病気への対応でお迎えを要請している方・・・学校側から送迎をお願いした方です。

②放課後、場所を移して児童の預かりを行って下さる公的機関の送迎車輛

③足の骨折など長い距離を松葉杖等で返すわけにはいかない児童の家庭の車輛

④放課後サポート教室等に参加して、他の児童と異なる時間に下校する児童の安全確保のための迎車

上記の例が基本と考えています。

申し訳ないと思いつつも、この判断基準には、イトーピアの奥の方から通っている方などのための距離条件は採用していません。どこで線引きしてもその内外で損得が生じてしまうからです。日常的に学校に協力頂いているPTAの役員さんにさえ、乗り合わせの条件が必須で、原則的には徒歩で参加頂いているのが現状です。

この話は、実はほとんどの保護者の方々にはご理解頂き、ご協力頂いているのが本当のところなのかとも思っています。申し訳なく思いつつも、大変ありがたく感じております。

だからこそ、守っている方々が、ただ単に損している、そんな長柄小学校にはしたくないですね。やはりここでも「自分も人も大切に」ですよね。

◆◆ 壊れていた逆上がり補助器を付け替えました。 ◆◆

PTAの皆様のご協力で、壊れかけていた逆上がり補助器を買い換えて新調することが出来ました。本当に嬉しく思います。新しい補助器を使って、より多くの児童が逆上がりができるようになることを期待してやみません。本当にご支援ありがとうございました。このあと、無事設置が済みましたら、改めて皆さんに紹介したいと思います。

◆◆ 長柄小では、コロナウイルス感染が高止まりか、再び拡大傾向に入っている可能性があります。 ◆◆

温かくなったことで、児童の気が緩み、友だち同士マスクもせずに遊んでいる児童が増えていることも一因と思われます。その結果、遊びを通しての陽性児童が減りません。このままでは、卒業式の中止・延期といった最悪の事態も予測できます。金曜日の朝打ちで、上記の予測を伝え、各担任から児童に注意喚起を呼びかけて頂きました。しかし、その日校庭に残って、バスケットに興じる児童を見ていると、10人くらいの中で4人がマスクをせずにキャーキャーと楽しんでいます。心配な事態が続くことは間違いありません。

無症状ですむ児童もいるようですが、発熱した児童の体温を伺うと、39度40度に達した児童もかなりいますし、1日で発熱がすんだ児童も多くいますが、数日苦しむ児童もかなりいるので、発症しなですむことが体への負担がないことは間違いありません。まだ感染は収まっていません。児童の放課後や、休日の過ごし方を今一度見つめ直し、慎重な行動をとれるようご指導頂ければ幸いです。宜しく願い申し上げます。

